

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 占冠村社会福祉協議会	代表者	会長 窪田 敏雄	法人・事業所 の特徴	平成 12 年より介護保険サービス（訪問介護）を開始し、平成 14 年には通所介護事業所を開設。平成 27 年度からは訪問介護、通所介護を小規模多機能型居宅介護に移行し、村内の在宅支援を行っています。訪問及び通所介護サービスからの移行に伴う利用料の増額対策として、介護度によって 4 割から 6 割の村助成があります。
事業所名	占冠村小規模多機能型 居宅介護施設	管理者	中本 留美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	人	1 人	人	2 人	人	人	4 人	2 人	10 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	毎月の会議で改善計画を確認し、職員一人ひとりやとま〜る全体として計画が実行できているかを評価する。また、できなかった事項があれば理由を明確にし、次回の改善計画を具体的に立てる。	引継ぎノートに改善計画を記入し周知することで意識的に行動することができた。毎月の会議で評価することもできていた。また、できなかった理由を明確にし次年度の改善計画を具体的に立てることができた。	・自身の評価が厳しいのではないかと 思う。第 3 者から見ると良くて いると思う。 ・村の防災訓練で訓練の精度をあげ たり、新たな訓練の要望をあげたり していることがわかった。 ・引き継ぎノートを使用し改善計画を 周知することで、毎日引き継ぎで細 かく申し送りができ、毎月の会議で 評価できていることがわかった。	引継ぎノートで改善計画を確認し、日々目標を持って支援を行っていく。毎月の会議にて計画が実行できているかを正しく評価する。また、できなかった事項があれば理由を明確にし、次の改善計画を具体的に立てる。
B. 事業所の しつらえ・環境	地域住民が参加できるイベントを計画し周知する。普段、地域住民が気軽に来所することができる時間帯をとま〜るだよりなどで周知し、事業所に入りやすい環境を整えていく。	地域住民が参加できるイベントを計画し、回覧やとま〜るだよりにて周知できた。普段地域住民が気軽に来所することができるよう時間帯などをとま〜るだよりで周知したが来所には至らなかった。また、とま〜るの場所がはっきりわからない地域住民もいることがわかった。	・少しでも気軽に来所できるように、 マスクを玄関に置いた方が良いと 思う。 ・とま〜る内で体操などを行うような 企画があれば、高齢者などの地域 の方も気軽に来所していただくと 思う。 ・とま〜るだよりやチラシなどでアピ ールはできていたと思うが、やはり 口頭で直接声掛けをすることも必 要だと思う。	地域住民が気軽に来所できるように環境を整える（玄関にマスク設置・とま〜るの地図をとま〜るだよりに載せるなど）。地域住民が参加できるイベントを計画し、とま〜るだよりやチラシ・口頭での呼びかけを行っていく。
C. 事業所と地域のかかわり	社協主催事業や村事業などにとま〜る利用者や職員が参加することで、地域住民に職員を覚えていただきながらアピールを行っていく。また、地域住民より困り事を伺った際にはケア会議などでの発信や多職種での共有や対応を継続していく。	社協主催事業や村事業などにとま〜る利用者や職員が参加したが、地域住民に職員を覚えていただけたかはわからなかった。見えやすい名札を付けた方が良い。また、地域住民より困り事を伺った際にはケア会議などでの発信や多職種での共有・対応を行うことができていた。	とま〜るだよりはレイアウトも良く見やすいが、報告だけではなく今後の予定も載せると良いと思う。	村・社協・学校行事への参加を継続し、とま〜るだよりに報告や今後の予定を載せることで、地域住民にとま〜るでの活動や職員のアピールを行っていく。また、地域住民より困り事を伺った際にはケア会議などでの発信や多職種で共有し対応を継続していく。

D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	地域資源の活用・とま〜るイベントを開催し、地域住民との関係性が切れないう地域交流を継続していく。	とま〜るを利用することで、とま〜るイベントや村事業・社協事業に参加し、久しぶりに地域住民と会うことができた利用者がいた。利用者が現在活用している地域資源との繋がりが途絶えないよう支援する事ができた。	・地域資源を利用者一人ひとりに合わせて希望なども考慮し使用できていることがわかった。継続して地域資源を活用してほしい。 ・とま〜るを利用することで、外出の機会が増え地域資源を以前より活用することができていると思う。	利用者一人ひとりに合った地域資源の活用を継続し、村・社協・学校・とま〜る行事の参加を促すことで地域資源活用の機会を増やす。また、地域住民の心配な方に対して多職種で連携し関わりを持っていく。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	運営推進会議にてとま〜るの困り事を報告することで、委員と困り事を共有し課題・対応を見い出していく。また、村関係者などにイベント（訓練や催し）の予定を周知し、多くの方が事業所を知っていただけるようにする。	運営推進会議ではその都度困り事を報告し、委員と困り事を共有し課題を見い出すことができていた。また、村関係者などにもイベントの予定を周知してたが、事業所を訪れる関係者は少なかった。周知方法を考慮していく必要があると思われる。	役場福祉子育て支援課課長が運営推進委員であることで、村への意見を率先して伝えていただいているため、改善していることが増えていると思う。	運営推進会議にてとま〜るの困り事を報告し委員と課題・対応を見い出していく。また、村関係者などにイベントの予定をチラシや口頭で周知し、多くの方が事業所を知っていただけるようにする。
F. 事業所の 防災・災害対策	各訓練を継続し、利用者・地域住民の意見を対策に反映していく。また、緊急事態時に地域住民が早期に気づける方法などを運営推進会議や村関係者と協議していく。	各訓練に利用者や運営推進委員に参加していただき意見を対策に反映することができた。また、緊急事態時に地域住民が早期に気づける方法などを運営推進会議や村関係者と協議しているが解決には至らなかった。継続して協議していく必要があると思われる。	・地震の避難訓練を実施し、地震後の想定などを行ってみても良いと思う。 ・行政区の総会などに出席させていただき、様々な災害時の想定を伝え協力体制を取っていければ良いと思う。	各訓練を継続し、様々な想定に対応できるよう対策を立てていく。行政区の方々に緊急事態時の状況を理解していただき、地域住民との協力体制が取れるよう協議していく。